

事務事業名	資源〔2〕ごみ回収事業				担当	市民生活部 環境課 ごみ減量係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			増補版施策名			
施策名	3	廃棄物の抑制と適切な処理			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成7年度～）		
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	2. 清掃費	1. 清掃総務費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	平成7年10月より、ごみを減らし、資源を有効に活用するため、加えて焼却場及び最終処分場の延命化を図るため、一般家庭から排出されるごみの分別方法を、従来の2分別から、資源を主体とした3種9分類18品目とした。 芳賀地区エコステーションが稼働した平成26年4月からは、3種9分類16品目とした。 真岡市リサイクルセンターが稼働した平成31年4月からは、4種10分類17品目とした。 その内、資源〔2〕は1種3分類7品目である。 当事業は、真岡地区のみが対象であり、二宮地区は委託業者が収集運搬をしている。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 31年度実績 ・真岡地区内241箇所の資源ステーションに市民が排出した、資源〔2〕を真岡市資源回収事業協同組合が回収し、問屋等に売却する。 市は運営経費から売却代金を引いた差額を負担金（赤字補填分）として交付する。  2年度計画 ・前年度と同様。 真岡地区は真岡市資源回収事業協同組合、二宮地区は委託業者が資源〔2〕の回収事業を行う。	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ・真岡市資源回収事業協同組合 ・真岡地区（真岡、山前、大内、中村）の人口	ア：負担金額	千円	10,131	10,575	13,558	16,780	12,500
	イ						
	ウ						
	エ						
	オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・資源〔2〕の安定的な回収を図る。	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア：運営経費	千円	26,000	26,000	26,091	26,000	26,000
	イ：資源〔2〕回収量	t	1,407	1,300	1,139	1,054	1,227
	ウ：人口（旧真岡地区）	人	64,276	64,496	64,484	64,516	64,541
エ：資源〔2〕売却代金	千円	15,869	15,425	12,532	9,220	12,500	
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） ・資源化率の向上を図る。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア：資源〔2〕回収量/人口（1人あたりの回収量）	Kg	21.9	20.2	17.7	16.2	18.7
	イ：売却代金/資源〔2〕回収量（1kgあたりの売却単価）	円	11.3	11.9	11.0	8.74	11.0
	ウ						
⑤ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移	名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)
	ア：資源化率〔（資源〔1〕〔2〕）/全ごみ量〕	%	11.9	11.1	10.1	15.9	17.3
	イ						
	ウ						
	エ						

(2) 総事業費の推移		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳						
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	10,131	10,575	13,559	16,780	12,500
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	10,131	10,575	13,559	16,780	12,500	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	120	120	120	120	120
		人件費計(B)	千円	498	498	500	485	485
トータルコスト(A)+(B)		千円	10,629	11,073	14,059	17,265	12,985	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	・ごみ処理施設及び最終処分場の延命化を図るため、ごみの分別収集の必要性が生じた。 ・平成7年10月から資源を主体とする3種9分類18品目の分別回収及び適正処理の開始にあたり、同年に真岡市資源回収事業協同組合が設立され、組合に資源〔2〕（新聞、雑誌・雑紙、ダンボール、牛乳パック、古着・古布、生きピン）の回収業務を依頼し、市は運営経費から売却代金を引いた差額を負担金（赤字補填分）として交付している。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	・市民の分別収集に対する意識が高まった。 ・売却代金が市場価格に左右されるため、負担金の増減がある。 ・平成25年4月から、生きピンとして四合ピン・二合ピンの回収を開始した。 ・資源〔2〕については、1種3分類7品目を回収している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・ごみを分別し、資源物として出してもらうことは、リサイクル意識の高揚とごみの排出抑制につながる適正な処理方法として市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・市の事業として定められているため妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・旧真岡地区全ての市民を対象とした資源回収事業として適切である。 ・なお、旧二宮地区については、収集委託業者がもえるごみや粗大ごみ等と同様に、この資源〔2〕についても回収している。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある ・電子情報機器の普及に伴い、資源となる紙媒体（新聞、雑誌等）の購入自体も減少傾向にあるため、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・市が行うべき事業であるため、廃止・休止ができない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・市は、運営経費から資源の売却代金を引いた差額を、負担金として交付しているため、削減余地がない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・負担金の支出事務であり、最少限度の経費のため、削減余地がない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・資源回収を行う真岡市資源回収事業協同組合に対する負担金であり、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							